

水無月に思う (メルマガ 2020 年 6 月号)

6 月を迎えました。令和 2 年も早、年の半ばに差し掛かろうとしています。

「水無月は時の流れの匂う午後 「もう」と思えり「まだ」と思えり」
愛用する手帳の 6 月のページに掲載されていた、歌人の俵万智さんの歌です。

なるほど、6 月を迎える頃の気持ちを言い当てていると思います。私の今年の 6 月は「もう」の心境になります。5 月まで学校が休業でしたので生徒の姿を見る機会もなく、「衣替え」の時期を迎えたことさえも忘れていました。メルマガの読者の皆様には、6 月を迎え、どのようにお感じになられていることでしょうか。

6 月は異称として「水無月」と呼ばれますが、梅雨時の 6 月に水が無いとは不思議なものです。改めて調べてみると、この「無」が「の」を意味する連体助詞の「な」であるため、水無月は「水の月」になるそうです。陰暦 6 月は、水田に水を引く月であったため、水の月、すなわち「水無月」といわれるようになったという説が有力であると書かれていました。

川崎市内で水田が見られる場所は減りましたが、地元の水田では、田植えに向けた代掻きの作業等が進められていました。秋には実り豊かであることを祈っています。

6 月の行事としては、「水無月祓（みなづきばらえ）」、または「夏越の祓（なごしのはらえ）」と呼ばれる神事があり、各地の神社で執り行われます。一年の半分を過ぎた 6 月晦日（30 日）に行われる、半年に一度の行事で、半年分の穢れ（けがれ）を落とし、後の半年の健康と厄除けを祈願するものです。

「茅の輪くぐり」がよく知られていますが、穢れを祓い清め、無病息災を祈願しながら大きな茅の輪（ちのわ）をくぐります。また、身に付いた穢（けが）れを移した人形（ひとがた）を水に流したりします。メルマガの読者の皆様もご存じの行事でしょうが、私のところでは、毎年お祓いをお願いしている神社が人形（ひとがた）の紙を送ってくださいますので、これに息を吹きかけて穢れを清め、無病息災を祈ることにしています。

そして、今年は、新型コロナウイルスの感染という未曾有の出来事に見舞われていますので、一日も早い感染終息と、世の中に穏やかで、且つ、活力あふれる生活が戻ることを祈念したいと思います。

全国に出されていた緊急事態宣言が解除され、6 月 1 日から、生涯学習プラザでも講座等の事業と施設利用を再開することができました。早期の再開を待ち望むお声を頂戴しておりましたので、嬉しいかぎりです。

それでも、感染のリスクがなくなったわけではありません。全てこれまでのとおりではなく、ご面倒もおかけいたしますが、利用者の皆様にもご協力をいただきながら、安全な生涯学習の場の確保に努めてまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。